

資料 B-3

手引き使用頻度と全体評価加算集計表

手引き使用頻度 \* 内容が充実している

加算表

			内容が充実している				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	27	23	2		52
		手引き使用頻度の%	51.9%	44.2%	3.8%		100.0%
	時々使っている	度数	138	281	25	2	446
		手引き使用頻度の%	30.9%	63.0%	5.6%	.4%	100.0%
	あまり使っていない	度数	55	147	36	2	240
		手引き使用頻度の%	22.9%	61.3%	15.0%	.8%	100.0%
合計	度数	220	451	63	4	738	
	手引き使用頻度の%	29.8%	61.1%	8.5%	.5%	100.0%	

カイ乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ乗	33.538 <sup>a</sup>	6	.000
尤度比	31.590	6	.000
線型と線型による連関	25.820	1	.000
有効なケースの数	738		

a. 4セル(33.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.28です。

手引き使用頻度 \* とるべき行動が具体的にわかる

加算表

			とるべき行動が具体的にわかる				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	15	32	5		52
		手引き使用頻度の%	28.8%	61.5%	9.6%		100.0%
	時々使っている	度数	78	268	90	10	446
		手引き使用頻度の%	17.5%	60.1%	20.2%	2.2%	100.0%
	あまり使っていない	度数	24	123	86	7	240
		手引き使用頻度の%	10.0%	51.3%	35.8%	2.9%	100.0%
合計	度数	117	423	181	17	738	
	手引き使用頻度の%	15.9%	57.3%	24.5%	2.3%	100.0%	

カイ乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ乗	36.035 <sup>a</sup>	6	.000
尤度比	37.000	6	.000
線型と線型による連関	31.863	1	.000
有効なケースの数	738		

a. 1セル(8.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.20です。

手引き使用頻度 \* 全体のページ数は多い

クロス表

			全体のページ数は多い				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	19	18	9	7	53
		手引き使用頻度の%	35.8%	34.0%	17.0%	13.2%	100.0%
	時々使っている	度数	188	154	89	16	447
		手引き使用頻度の%	42.1%	34.5%	19.9%	3.6%	100.0%
	あまり使っていない	度数	123	77	31	7	238
		手引き使用頻度の%	51.7%	32.4%	13.0%	2.9%	100.0%
合計	度数	330	249	129	30	738	
	手引き使用頻度の%	44.7%	33.7%	17.5%	4.1%	100.0%	

カイ乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ乗	20.540 <sup>a</sup>	6	.002
尤度比	16.698	6	.010
線型と線型による連関	11.879	1	.001
有効なケースの数	738		

a. 1セル(8.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は2.15です。

手引き使用頻度 \* 実践に役立つ

クロス表

			実践に役立つ				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	22	29	2		53
		手引き使用頻度の%	41.5%	54.7%	3.8%		100.0%
	時々使っている	度数	77	279	83	6	445
		手引き使用頻度の%	17.3%	62.7%	18.7%	1.3%	100.0%
	あまり使っていない	度数	16	129	87	9	241
		手引き使用頻度の%	6.6%	53.5%	36.1%	3.7%	100.0%
合計	度数	115	437	172	15	739	
	手引き使用頻度の%	15.6%	59.1%	23.3%	2.0%	100.0%	

カイ乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ乗	73.861 <sup>a</sup>	6	.000
尤度比	73.091	6	.000
線型と線型による連関	67.176	1	.000
有効なケースの数	739		

a. 2セル(16.7%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.08です。

手引き使用頻度 \* 援助プロセスがよくわかる

クロス表

			援助プロセスがよくわかる				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	18	27	8		53
		手引き使用頻度の%	34.0%	50.9%	15.1%		100.0%
	時々使っている	度数	76	260	103	6	445
		手引き使用頻度の%	17.1%	58.4%	23.1%	1.3%	100.0%
	あまり使っていない	度数	26	135	77	5	243
		手引き使用頻度の%	10.7%	55.6%	31.7%	2.1%	100.0%
合計	度数	120	422	188	11	741	
	手引き使用頻度の%	16.2%	57.0%	25.4%	1.5%	100.0%	

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ2乗	23.942 <sup>a</sup>	6	.001
尤度比	22.920	6	.001
線型と線型による連関	20.151	1	.000
有効なケースの数	741		

a. 2セル(16.7%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.79です。

手引き使用頻度 \* 知りたいことがすぐに調べられる

クロス表

			知りたいことがすぐに調べられる				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	12	26	14	1	53
		手引き使用頻度の%	22.6%	49.1%	26.4%	1.9%	100.0%
	時々使っている	度数	57	221	152	14	444
		手引き使用頻度の%	12.8%	49.8%	34.2%	3.2%	100.0%
	あまり使っていない	度数	24	97	106	16	243
		手引き使用頻度の%	9.9%	39.9%	43.6%	6.6%	100.0%
合計	度数	93	344	272	31	740	
	手引き使用頻度の%	12.6%	46.5%	36.8%	4.2%	100.0%	

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ2乗	19.632 <sup>a</sup>	6	.003
尤度比	18.797	6	.005
線型と線型による連関	16.863	1	.000
有効なケースの数	740		

a. 1セル(8.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は2.22です。

手引き使用頻度 \* 問題解決に役立っている

クロス表

		問題解決に役立っている				合計
		そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	16	28	9	53
		手引き使用頻度の%	30.2%	52.8%	17.0%	100.0%
	時々使っている	度数	51	274	115	447
		手引き使用頻度の%	11.4%	61.3%	25.7%	100.0%
	あまり使っていない	度数	9	104	117	239
		手引き使用頻度の%	3.8%	43.5%	49.0%	100.0%
合計	度数	76	406	241	739	
	手引き使用頻度の%	10.3%	54.9%	32.6%	100.0%	

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ2乗	74.610 <sup>a</sup>	6	.000
尤度比	70.493	6	.000
線型と線型による連関	63.761	1	.000
有効なケースの数	739		

a. 1セル(8.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.15です。

手引き使用頻度 \* 自己学習できる

クロス表

		自己学習できる				合計
		そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	27	19	7	53
		手引き使用頻度の%	50.9%	35.8%	13.2%	100.0%
	時々使っている	度数	158	245	44	449
		手引き使用頻度の%	35.2%	54.6%	9.8%	100.0%
	あまり使っていない	度数	61	149	30	244
		手引き使用頻度の%	25.0%	61.1%	12.3%	100.0%
合計	度数	246	413	81	746	
	手引き使用頻度の%	33.0%	55.4%	10.9%	100.0%	

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ2乗	20.151 <sup>a</sup>	6	.003
尤度比	20.352	6	.002
線型と線型による連関	12.293	1	.000
有効なケースの数	746		

a. 3セル(25.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.43です。

手引き使用頻度 \* 意志決定をするのに役立つ

クロス表

			意志決定をするのに役立つ				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	21	21	11		53
		手引き使用頻度の%	39.6%	39.6%	20.8%		100.0%
	時々使っている	度数	58	227	147	15	447
		手引き使用頻度の%	13.0%	50.8%	32.9%	3.4%	100.0%
	あまり使っていない	度数	14	102	114	14	244
		手引き使用頻度の%	5.7%	41.8%	46.7%	5.7%	100.0%
合計	度数	93	350	272	29	744	
	手引き使用頻度の%	12.5%	47.0%	36.6%	3.9%	100.0%	

カイ乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ乗	60.257 <sup>a</sup>	6	.000
尤度比	53.080	6	.000
線型と線型による連関	43.990	1	.000
有効なケースの数	744		

a. 1セル(8.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は2.07です。

手引き使用頻度 \* 新人研修に役立つ

クロス表

			新人研修に役立つ				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	17	28	7	1	53
		手引き使用頻度の%	32.1%	52.8%	13.2%	1.9%	100.0%
	時々使っている	度数	155	221	61	11	448
		手引き使用頻度の%	34.6%	49.3%	13.6%	2.5%	100.0%
	あまり使っていない	度数	75	131	31	7	244
		手引き使用頻度の%	30.7%	53.7%	12.7%	2.9%	100.0%
合計	度数	247	380	99	19	745	
	手引き使用頻度の%	33.2%	51.0%	13.3%	2.6%	100.0%	

カイ乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ乗	1.659 <sup>a</sup>	6	.948
尤度比	1.669	6	.948
線型と線型による連関	.284	1	.594
有効なケースの数	745		

a. 1セル(8.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.35です。

手引き使用頻度 \* 経験者が使用するのに役立つ

クロス表

		経験者が使用するのに役立つ				合計
		そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	21	27	5	53
		手引き使用頻度の%	39.6%	50.9%	9.4%	100.0%
	時々使っている	度数	78	265	96	440
		手引き使用頻度の%	17.7%	60.2%	21.8%	100.0%
	あまり使っていない	度数	25	132	73	240
		手引き使用頻度の%	10.4%	55.0%	30.4%	100.0%
合計	度数	124	424	174	733	
	手引き使用頻度の%	16.9%	57.8%	23.7%	100.0%	

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ2乗	50.199 <sup>a</sup>	6	.000
尤度比	47.448	6	.000
線型と線型による連関	38.380	1	.000
有効なケースの数	733		

a. 2セル(16.7%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.80です。

手引き使用頻度 \* 援助の指針として『手引き』は重要である

クロス表

		援助の指針として『手引き』は重要である				合計
		そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	36	16		52
		手引き使用頻度の%	69.2%	30.8%		100.0%
	時々使っている	度数	222	198	25	447
		手引き使用頻度の%	49.7%	44.3%	5.6%	100.0%
	あまり使っていない	度数	93	115	33	243
		手引き使用頻度の%	38.3%	47.3%	13.6%	100.0%
合計	度数	351	329	58	742	
	手引き使用頻度の%	47.3%	44.3%	7.8%	100.0%	

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ2乗	30.584 <sup>a</sup>	6	.000
尤度比	33.185	6	.000
線型と線型による連関	27.202	1	.000
有効なケースの数	742		

a. 4セル(33.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.28です。

手引き使用頻度 \* 『手引き』の内容は既に知っているので参考にならない

クロス表

			『手引き』の内容は既に知っているので参考にならない				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	2	8	17	26	53
		手引き使用頻度の%	3.8%	15.1%	32.1%	49.1%	100.0%
	時々使っている	度数	6	52	219	168	445
		手引き使用頻度の%	1.3%	11.7%	49.2%	37.8%	100.0%
	あまり使っていない	度数	4	39	120	79	242
		手引き使用頻度の%	1.7%	16.1%	49.6%	32.6%	100.0%
合計	度数	12	99	356	273	740	
	手引き使用頻度の%	1.6%	13.4%	48.1%	36.9%	100.0%	

カイ乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ乗	10.599 <sup>a</sup>	6	.102
尤度比	10.374	6	.110
線型と線型による連関	3.172	1	.075
有効なケースの数	740		

a. 2セル(16.7%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.86です。

手引き使用頻度 \* 内容が難しい

クロス表

			内容が難しい				合計
			そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	
手引き使用頻度	日常的に使っている	度数	2	8	28	15	53
		手引き使用頻度の%	3.8%	15.1%	52.8%	28.3%	100.0%
	時々使っている	度数	5	93	263	86	447
		手引き使用頻度の%	1.1%	20.8%	58.8%	19.2%	100.0%
	あまり使っていない	度数	6	60	143	33	242
		手引き使用頻度の%	2.5%	24.8%	59.1%	13.6%	100.0%
合計	度数	13	161	434	134	742	
	手引き使用頻度の%	1.8%	21.7%	58.5%	18.1%	100.0%	

カイ乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ乗	11.648 <sup>a</sup>	6	.070
尤度比	11.278	6	.080
線型と線型による連関	7.104	1	.008
有効なケースの数	742		

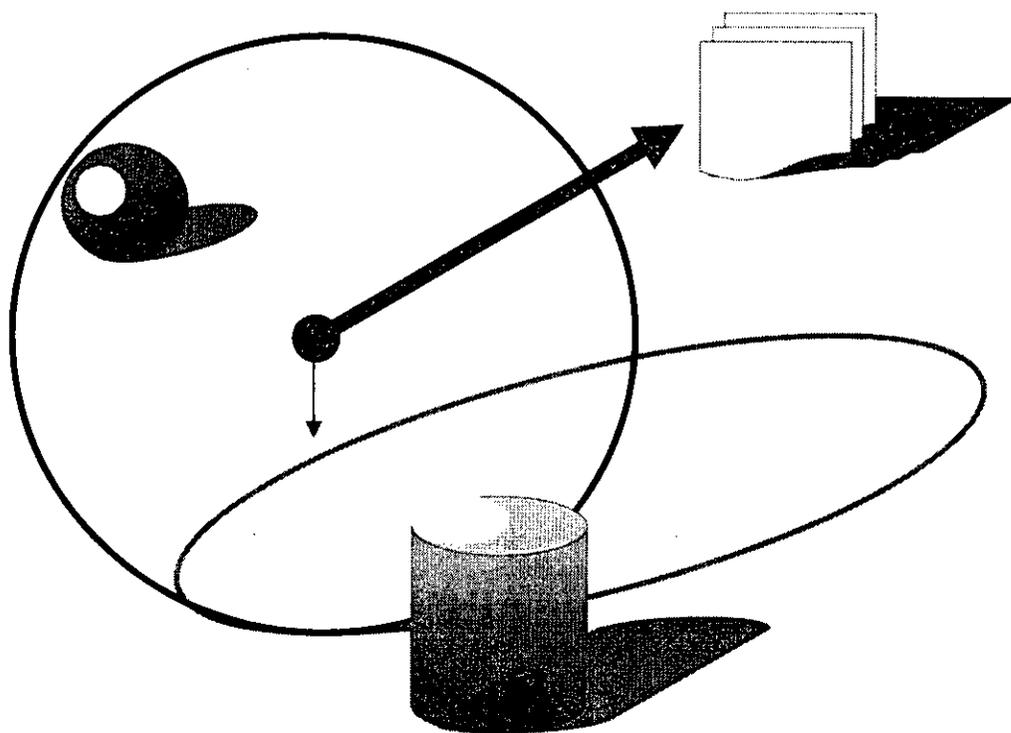
a. 2セル(16.7%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.93です。

平成13年度厚生科学研究  
子ども家庭総合研究事業

プロジェクト2

エキスパートへの面接調査に基づく意思決定構造の分析

インタビュー・マニュアル



関西学院大学

## 目次

### マニュアル1：インタビューの方法

I インタビューの趣旨 .....	488
II インタビューの手順 .....	489
III インタビューをする際の注意点 .....	491
資料1 主な意思決定場面 .....	493

### マニュアル2：記録表の使用方法

I インタビュー記録表.....	494
II If-Then ルール表.....	495
資料2 インタビュー記録表 .....	496
資料3 If-Then ルール表 .....	497

### マニュアル3：コーディネーターの仕事

I コーディネーターの仕事の流れ.....	498
-----------------------	-----

\* マニュアル1と2は面接員のため、3はコーディネーターのためのマニュアルです。

## マニュアル1 インタビューの方法

### I インタビューの趣旨

熟練した児童福祉司（エキスパートと呼ぶ）に対するインタビュー調査の目的は、児童虐待ケースの援助プロセスにおける重要な意思決定場面においてエキスパートが行う優れた判断行動の特徴（認知構造）を知ることです<sup>14</sup>。

児童虐待ケースの援助においては、いくつかの重要な意思決定場面（例えば、①通告・受理、②一時保護・調査、③判定・処遇、④28条申立て、⑤援助計画の作成・実施、⑥家庭引き取り、⑦ケースの見直し）があると考えられます。そのような意思決定場面において、エキスパートがどのような情報を集め、分析・判断し、援助のイメージを組み立てているかという、意思決定のプロセスを明確にするのです。

児童虐待に対する児童福祉司の専門的対応における意思決定は、子どもと家族の人生を左右し、時には子どもの命に関わる重大な決定であるにも関わらず、そのプロセスはまだ明確に示されていません。このような状況では、実証的な調査研究や理論に基づく「こうあるべきだ」という意思決定、すなわちラショナルな意思決定モデルが見出しにくく、むしろエキスパートの経験から生まれた判断ルール（ルール・オブ・サム）、勘（ハンチ）あるいは経験から生まれた常識（コモンセンス）といったヒューリスティックな要素を、意思決定のモデルを作る際に、積極的に取り入れていく必要があると思われます。

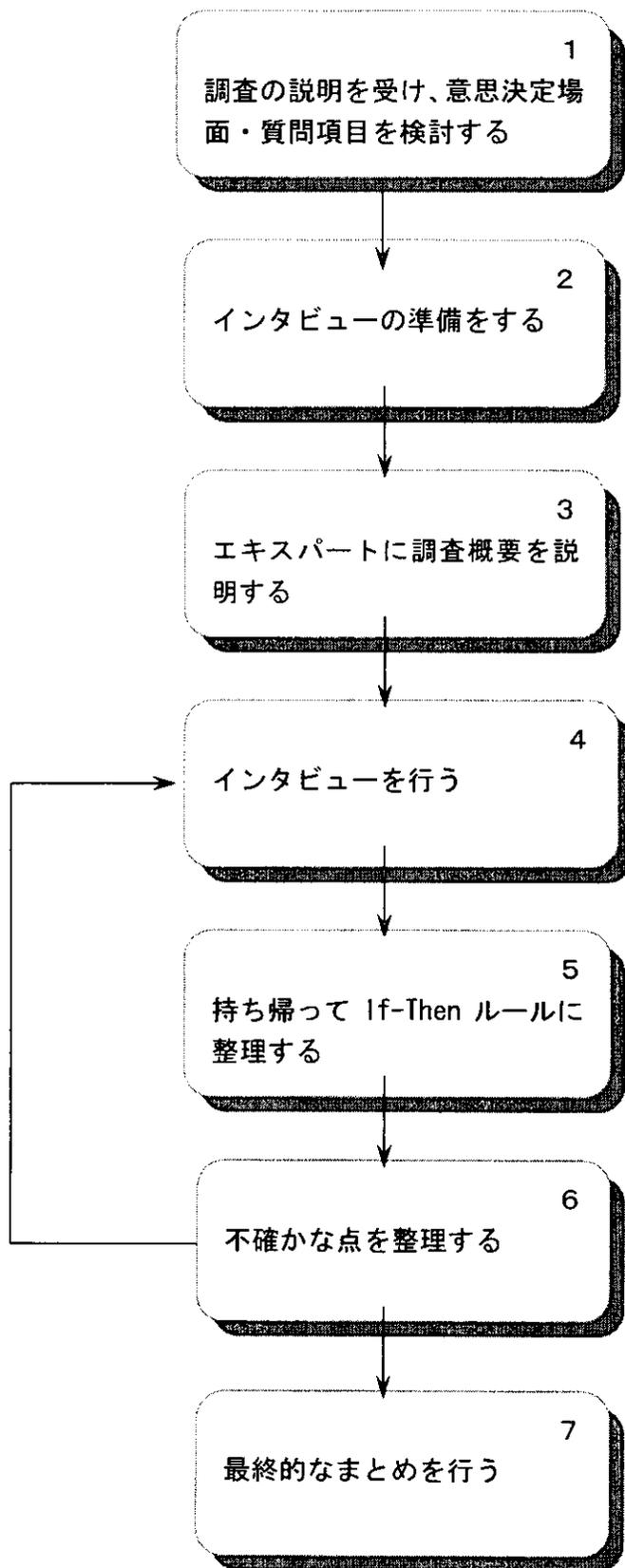
このインタビュー調査では、AI エキスパートシステム開発する際のインタビュー手続きを用いて、児童虐待ケースの援助に関わっている経験豊かなエキスパートの思考プロセスやルール（スキーマ）を明らかにします。このインタビューの成果は、プロジェクト2のマルチメディア教材の開発、プロジェクト4の電子書式の開発に役立てることになります。

---

<sup>14</sup> AI エキスパートシステムは、人工知能の考え方を取り入れた意思決定プログラムで、特定の問題領域において経験の少ないユーザーに専門的なコンサルテーションを行うものです。具体的には、ユーザーがプログラムが問いかける質問に答えることによって、経験の少ないユーザーには判断しにくい状況において熟練した状況の分析とそれに基づく意思決定の結果を提供するものです。シカゴ大学の Schuerman 教授らが開発中のシェル（コマンドを解釈し実行するインタプリタ）は、プロダクション・ルール・システムという方法を採用しており、一つあるいはそれ以上の仮説から出発して、一つひとつの仮説をチェックするバックワード・チェイニング方式で、チェックの繰り返しを特徴とするエキスパートシステムのシェルです。本研究では、こうしたAI エキスパートシステムの構築が目的ではありませんが、エキスパートシステムの考え方やエキスパートをモデリングする手法を用いて、エキスパートの意思決定における認知構造を明らかにし、教育訓練教材の開発や電子書式の開発に役立てようとするものです。

## II インタビューの手順

インタビューは以下の手順で行います。



## 1. 調査の説明を受け、意思決定場面・質問項目を検討する

- 面接員（7名）、学識経験者（1名）、コーディネーター（調査の進行役：1名）でワーキング・グループをもち、マニュアル1と2をもとにして、コーディネーターからインタビューの方法や記録表の使用法の説明を受けます。面接員は、エキスパートシステムの考え方、インタビューの方法、If-Then ルールの作成の仕方等に関してよく話し合い、共通の認識をもっておく必要があります。
- 資料1を参考に、児童虐待援助における重要な意思決定場面、質問項目を検討します。
- ひとりのエキスパートにすべての意思決定場面についてインタビューすることは困難だと思われれます。個々のエキスパートの経験を考慮し、得意と思われる意思決定場面や虐待の種類などをできるだけ把握しておいて、質問内容をある程度絞り込んでおきます。
- 実際の面接を想定して、ロールプレイを行います。

## 2. インタビューの準備をする

- 担当するエキスパートが決まったら、インタビューを開始するまでに、面接員は以下の項目をおさえておきます。
  - ① 児童虐待に関する法的手続き
  - ② 児童虐待に関する事務処理や書類手続き
  - ③ その機関の体制・業務・児童虐待への取り組み・ケース処遇の流れ
  - ④ スーパーバイズなどエキスパートの意思決定に影響を与える外的意思決定要因
- ③については、担当するエキスパートのいる機関の白書や報告書等で明らかにできると思われれます。④について事前にわからなければ、インタビューの中で徐々に明らかにしていきます。

## 3. エキスパートに調査概要を説明する

- 面接員はエキスパートとコンタクトをとり、調査概要の説明をします。具体的には、①調査の目的、②インタビューの方法、③その後の見通しについて話しあいます。

## 4. インタビューを行う

- インタビューは表1を参考に進めます。主に聴取することは、児童虐待ケースの援助プロセスの中のそれぞれの意思決定場面において、①エキスパートがどのような情報を得たのか、②その情報をどのように活用し判断したのか、そして③どのように行動したか、もしくはどのような結果（短期／中・長期的）になったのか、という点です。
- インタビューは、1時間～1時間半を目安とし、2時間を超えないようにします。インタビューは録音しますが、テープおこしは基本的に行わず、補足的に用いるだけです。聴取内容をインタビュー記録表（資料1参照）に記入しながらインタビューを進めます。テープおこしは大変時間を消費する作業であるにもかかわらず、本研究で用いる内容が一部に限定されるためです。

## 5. 持ち帰って If-Then ルールに整理する

- インタビュー終了後、インタビュー内容（インタビュー記録表）を持ち帰り、If-Then ルール表（資料2参照）を用いて、インタビューで聴取した内容を If-Then ルールに直す作業を行います。インタビュー記録表に不明な点がある場合は、録音したテープを用いて補足しま

す。Ifは収集し活用した情報であり、Thenは執った行動です。あるいはIfが行動で、Thenがその結果という場合もあります。

## 6. 不確かな点を整理する

- If-Thenルールを整理しながら出てきた不明確な点や新たな疑問を明記し、インタビューを再度行います。不明な点がなくなるまで、インタビューの実施→If-Thenルールの整理→不明確な点や新たな疑問の整理→インタビューの実施をくり返し行います。状況によって異なりますが、インタビューの回数の目安は、3～5回です。
- 面接員（7名）、学識経験者（1名）、コーディネーター（1名）でワーキング・グループを持ち、チーム全体で各意思決定場面をバランス良くインタビューできているか確認し、インタビューにおける疑問点について話し合います。

## 7. 最終的なまとめを行う

- すべてのインタビューを通して明らかになった If-Thenルールを整理し、エキスパートからのフィードバックを得ながら最終的なまとめを行います。

# Ⅲ インタビューをする際の注意点

## 1. インタビューの目的はエキスパート個人の頭の中にある普遍的なルールを導き出すこと

今回のインタビューでは、個々のエキスパートの頭の中にある意思決定に関するルールを導き出します。エキスパートは、児童虐待のケースに対応する際、それまでの経験をもとにある一定のルールやパターンを持って意思決定を行っていると考えられます。それはラショナルなものかも知れませんが、ヒューリスティックなものかも知れません。エキスパートの頭の中にあるルールは平均的で一般的なものすなわち普遍的なものではなく、そのエキスパート個人に特徴的なものですが、一貫したものでもあります。したがってエキスパート個人の頭の中にある普遍的なルールということができます。エキスパートによってそれぞれ異なるユニークなルールが導き出されるはずですが、今回は複数のエキスパートにインタビューを行います。それは、多くのエキスパートに共通するルールを導き出し普遍化しようとするためではなく、比較しながらよい部分のみを見つけ出すために行うのです。

## 2. エキスパート個人に焦点をあてる

インタビューでは、個々のケースに焦点をあてるのではなく、エキスパート個人に焦点をあてることとなります。インタビューの中で、エキスパートが特定のケースをあげて説明するのは一向にかまいませんが、一つのケースについての対処プロセスにこだわって、事例研究にならないように留意します。

## 3. エキスパートの実践はいつもルールに従っている

インタビューの初期段階では、エキスパートは、自らの経験や知識を他人に話したり伝えたりできるものではないと考えている場合が多いようです。エキスパートは「それは直感です」とか、「わかるように説明するのは難しいですね」とか、「長年の勘ですよ」と説明するかもしれません。しかし、エキスパートの意思決定プロセスを根気よく話してもらい、それを正確に聞き取ることによって、エキスパートに特徴的な意思決定のルールが明らかになるはずですが、エキスパー

トの実践は、エキスパート自身も気づかないうちに、ルールに従っていることを認識しておく必要があります。

#### 4. 意思決定に関する要因をあげてもらい、特に重要な要因を特定する

意思決定において考えられるすべての要因を特定する必要があります。意思決定に関係する要因をできるだけ多くあげてもらい、その中で重要な意思決定要因となったものを特定してもらいます。

#### 5. 新たな意思決定場面や質問項目を探索する

表1で主な意思決定場面をあげていますが、インタビューの中で、表1以外の重要な意思決定場面や質問すべき項目が出てくる可能性もあるので、「他に何か重要だと考えられる意思決定場面はありますか」「～の場面で他に判断しなくてはならないことはありますか」といった質問も有効であると思われます。

#### 6. 適切にインタビューを行う

インタビューはあまり事務的になりすぎたはいけません、インタビュー時間が限られているので、インタビューの目的から外れる話に時間をとられすぎないように注意します。

#### 7. チームとして動く

前にも触れたように、すべての意思決定場面について、ひとりのエキスパートにインタビューをするのは、エキスパートにとっても面接者にとっても大変負担です。そこで、面接者がそれぞれの部分をインタビューするか役割分担を決め、チーム全体で各意思決定場面をバランスよくインタビューする必要があります。主に、担当のエキスパートの得意であると思われる意思決定場面や虐待の種類によって、分担を決めるのがよいと思われます。インタビューの間に、サブ・ワーキング・グループを持ち、インタビューの進み具合を確認します。

表1 意思決定場面

	意思決定場面	意思決定内容 (*は主たるもの)	質問の仕方
1	通告・受理	<p>*すぐ動くか/時間的余裕があるか</p> <p>通告者から聴取する情報の内容・聴取方法</p> <p>受理をするか/しないか</p>	<p>緊急性は、何をもとに判断するか。</p> <p>通告者からは、どのような情報をどのような方法で聴取するか。</p> <p>聴取する情報の内容・方法は、何をもとに決定するか。</p> <p>受理の要否は、何をもとに判断するか。</p>
2	一時保護・調査	<p>*一時保護をするか/しないか</p> <p>一時保護の方法</p> <p>職権か/同意か</p> <p>立入調査をするか/しないか</p> <p>調査で集める情報の収集先・情報の内容・収集方法</p> <p>子ども・保護者への接触の方法</p> <p>子ども・保護者との面接の内容・方法</p>	<p>一時保護の要否は、何をもとに判断するか。</p> <p>一時保護をする場合、どのように行うか。</p> <p>一時保護の方法は、何をもとに決定するか。</p> <p>一時保護をする場合、職権か同意かは何をもとに判断するか。</p> <p>一時保護をする場合、立入調査の要否は、何をもとに判断するか。</p> <p>調査では、どこからどのような情報をどのような方法で収集するか。</p> <p>情報の収集先・情報の内容・収集方法は、何をもとに決定するか。</p> <p>子ども・保護者にどのように接触するか。</p> <p>接触の方法は、何をもとに決定するか。</p> <p>子ども・保護者との面接では、どのような情報をどのように聴取するか。</p> <p>面接の内容と方法は、何をもとに決定するか。</p>
3	判定・処遇	*施設か/在宅か	施設入所の要否は、何をもとに判断するか。(子ども意思を取り入れるか)
4	28条申立て	*28条を申し立てるか/申し立てないか	施設入所の場合、28条申立ての要否は、何をもとに判断するか。
5	援助計画の作成・実施	*子ども・保護者への援助の方法	子ども・保護者への施設/在宅における援助は、どのように行うか。
		入所期間・家庭復帰の見通しの設定	援助の方法は、何をもとに決定するか。
		面会・外泊の方法	施設入所の場合、入所期間・家庭復帰の見通しは、何をもとに決定するか。
		モニタリングの実施機関・方法	施設入所の場合、面会・外泊の方法は、どのように行うか。
			面会・外泊の方法は、何をもとに決定するか。
			在宅の場合、モニタリングの実施は、どの機関が何を行うのか。
			実施機関・方法は、何をもとに決定するのか。
6	家庭引き取り	*家庭引き取りをするか/しないか	施設入所の場合、家庭引き取りの適否は、何をもとに判断するか。
7	ケースの見直し	*継続か/措置解除か/終結か	ケースを継続・措置解除・終結は、何をもとに判断するか。

## マニュアル2 記録表の使用方法

### I インタビュー記録表

エキスパートにインタビューを行いながら、インタビュー記録表にメモをとります。記録する内容は、①エキスパートがどのような情報を得たのか、②その情報をどのように活用し判断したのか、そして③どのように行動したか、もしくはどのような結果（短期／中・長期的）になったのか、という点です。左から右に記入し一段記入し終えたら、横線を引いて次の段に記入します。

#### インタビュー記録表記入例

①得た情報	②判断	③行動・結果(短期/中・長期的)
<p>通告・受理場面、身体的虐待、近隣からの通告の例</p> <p>&lt;通告の際に得た情報&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本児は4歳、第3歳</li> <li>・ 母親のどなる声とたたく音、本児の泣く声が聞こえる。</li> <li>・ 本児が保育所に通っているかは不明。</li> </ul>	<p>&lt;判断&gt;</p> <p>下記の項目を確認すべきと判断した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3歳児健診での情報</li> <li>・ 保育所に通っているか</li> <li>・ 生活保護世帯か</li> <li>・ 家族の状況</li> </ul>	<p>&lt;行動&gt;</p> <p>以下から情報を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→保健部</li> <li>→住民台帳</li> <li>→福祉事務所</li> <li>→児童委員</li> </ul>
<p>&lt;電話等にて得た情報&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健部→特に問題なし。</li> <li>・ 住民台帳→保育所には通っていない。</li> <li>・ 福祉事務所→生活保護世帯ではない。</li> <li>・ 児童委員→特に問題なし。</li> </ul>	<p>&lt;判断&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 決め手となる情報がないので家庭訪問を行う。</li> </ul>	<p>&lt;行動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭訪問を行った。</li> </ul>
<p>&lt;家庭訪問にて得た情報&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 兄弟げんかをよくするので、その際に母は怒ったりたたいたことはある。</li> <li>・ 子どもは母親に甘えており、母子関係に問題は見られない。</li> <li>・ 本児は幼稚園に通っている。</li> <li>・ 本児、弟とも身体的傷は見られない。</li> <li>・ 夏場で家のドアは開け放しており声の通りやすい環境である。</li> </ul>	<p>&lt;判断&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母子関係に問題がない</li> <li>・ 本児が幼稚園に通っている</li> <li>・ 身体的傷は見られない</li> </ul> <p>以上のことから、虐待の事実はないと判断する。</p>	<p>&lt;行動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母に何かあった場合は児相に相談するよう伝える。</li> <li>・ 児童委員に見守りを依頼。</li> <li>・ 虐待の事実はないので終結とする。</li> </ul> <p>&lt;短期的結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者から通告者についての問い合わせがある。</li> </ul> <p>&lt;長期的結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6ヶ月後、近隣から再び通告がある。</li> </ul>
<p>.....</p>		

## II If-Then ルール表

インタビューを行った後、インタビュー記録表を持ち帰り、If-Then ルール表に書き込みます。記入する内容は、Ifは収集し活用した情報であり、Thenはとった行動です。あるいはIfが行動で、Thenがその結果という場合もあります。左右交互に1コマずつ書き込んでいきます。

### If-Then ルール表記入例

IF	THEN
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通告受理場面</li> <li>・ 身体的虐待</li> <li>・ 近隣からの通告の場合。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本児の年齢</li> <li>・ 状況</li> <li>・ 本児が保育所等に通園しているかを通告者から聴取する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本児は4歳、弟3歳</li> <li>・ 母親のどなる声とたたく音、本児の泣く声が聞こえる。</li> <li>・ 本児が保育所に通っているかは不明。</li> </ul> という情報を得る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3歳児健診での情報 →保健部</li> <li>・ 保育所に通っているか →住民台帳</li> <li>・ 生活保護世帯か →福祉事務所</li> <li>・ 家族の状況 →児童委員</li> </ul> を確認すべきと判断した。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3歳児健診問題なし</li> <li>・ 保育所には通っていない</li> <li>・ 生活保護世帯ではない</li> <li>・ 児童委員は本世帯について特に問題と感じていない</li> </ul> という情報を得る。	決め手となる情報がないので家庭訪問を行うべきと判断し、実行する。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母子関係良好</li> <li>・ 本児は幼稚園に通っている</li> <li>・ 身体的傷はなし</li> <li>・ 声の通りやすい住宅環境</li> </ul> という情報を得る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母子関係に問題がない</li> <li>・ 本児が幼稚園に通っている</li> <li>・ 身体的傷は見られない</li> </ul> ことから、虐待の事実はないと判断し、終結とする。
このような状況で終結とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者から通告者についての問い合わせがある。(短期的)。</li> <li>・ しかし、6ヵ月後近隣から再び通告(長期的)。</li> </ul>
. . . . . 上記の情報を通告者から得る。	. . . . .
. . . . .	. . . . .

資料2 インタビュー記録表

①得た情報	②判断	③行動・結果(短期/中・長期的)

資料3 If-Then ルール表

IF	THEN

### マニュアル3 コーディネーターの仕事

#### I コーディネーターの仕事の流れ

コーディネーターとは、この調査の進行役であり、ワーキンググループの結成、調査の進捗状況の把握、調査のまとめなどを行います。

コーディネーターの仕事の流れは以下のとおりです。

